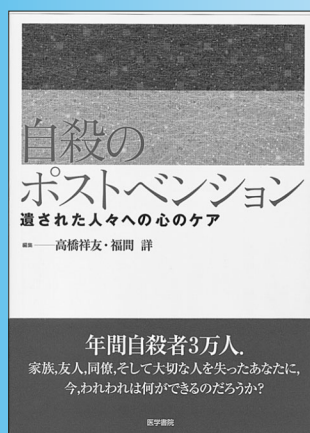


「自殺」にかかわるすべての 保健医療従事者必読の一冊

【評者】宮本有紀 東京大学大学院医学系研究科精神看護学分野

自殺のポストベンション 遺された人々への心のケア 高橋祥友・福岡 詳(編)



定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)
B5判, 208 ページ
医学書院 (Tel.03-3817-5657)

わが国における年間自殺者総数が3万人を超えるという事態は依然として変わっていない。ここで年間何万人と数値であげなくとも、実際に私たちの身の回りにも自殺していく人々—友人、知人や家族、そして職場で接している人々—がいる。誰かが自ら命を絶つという事態に遭遇して無力感に襲われる、あるいは遺された人を見て立ちつくす、そんな経験はないだろうか？

このような自殺がなぜ生じるのか考え、今後、そのリスクを減らそうとするものが自殺予防(＝プリベンション)であるのに対して、不幸にして自殺が生じてしまった後に、その自殺によって遺された人々に引き起こされる影響をできるだけ少なくしようとするものがポストベンションである。

自殺者の周囲にはその何倍もの「遺された人々」が生じており、またそれらの人々への影響は甚だ大きいにもかかわらず、この何十万人もの遺された人々に焦点を合わせた書は少ない。また、遺された人々の心情について、あるいはその人々に対する配慮の必要性については触れられていても、遺された人々に対するケアを実際に行うための方法まで示した書はなかった。本書は、自殺が生じてしまった後に遺された人々へ行うケア、つまり自殺のポストベンションについて実践的にまとめられた画期的な書である。

本書では、遺された人々の心理や起こり得る反応、それらの人々への対応の原則について、また、おもに職場で自殺が起きたときのポストベンションとしての個別ケア、グループに対するケアについて具体的な方法や意義、目的を提示しながらわかりやすく述べてある。ここには、自殺のポストベンションに実際に携わり、精力的に活動している著者らだからこそ書くことのできた知識と経験が詰まっており、注意すべき点や話す内容にいたるまで具体例があげられているため、これらのケアを実践する際には大いに役立つことだろう。今後ポストベンションチームの一員として活動する予定はなかったとしても、ポストベンションの概念を知っておくことで、遺された人々と接する際の指針とすることができると思われる。

わが国で普及していたとはいいがたい自殺のポストベンションの概念、およびその活動を広めるにあたってこの書が果たした役割、そして今後果たすであろう役割ははかりしれない。

自殺予防について述べた、この書の前身とも言える高橋祥友著『医療者が知っておきたい自殺のリスクマネジメント』(医学書院)とともに、保健医療従事者にとって必読の書と言えよう。